

令和7年2月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	18	議席 番号	1	氏名	近 藤 千 鶴 議員	1 / 1
発 言 項 目				要 旨		答 弁 者
1	学校教育に対しての保護者等からの要望や意見について			<p>(1) 学校の統廃合の方向性について。 保護者の意見を丁寧に聞くことは評価するが、教育委員会として学校の統廃合に対する具体的な方向性を明確に示すことで、より建設的な議論が行われると考えるが、今後の方針はどうなっているのか伺う。</p> <p>(2) 小規模特認校制度について。 令和7年度から人穴小学校に小規模特認校制度が適用されるが、ほかの小規模校でも同様な選択肢を希望する保護者や地域が増えることが予想される。この制度がほかの小規模校にも適用可能か、教育委員会の見解を伺う。</p> <p>(3) 小学校区と中学校区の統一について。 現在、小学校区と中学校区が異なる学校が存在するが、これによって生じる様々な問題を解決するために、区域を統一することは可能か伺う。</p> <p>(4) 指定靴及び入学用品に関する費用軽減について。 ① 指定されている白の運動靴だけでなく普通の運動靴の使用も認められないか。 ② 中学校入学に際して、指定ジャージやカバンの費用が高額になっている。これらの費用を抑える方法や指定を見直すことは可能か伺う。</p> <p>(5) コミュニティ・スクールの進捗状況について。 今年度から始まっているコミュニティ・スクールの現在の進捗状況を伺う。東小学校や芝富小学校、芝川中学校の地域との関わりについて具体的な事例を伺う。</p> <p>(6) 給食費の徴収方法について。 現在、給食費の徴収が教職員によって行われているが、これによる教職員の負担と、保護者との間の関係悪化が懸念されている。市からの一括請求に切り替えることは検討しているか伺う。</p> <p>(7) 外国人児童のための支援学級について。 外国籍のこどもたちで日本語を理解できずに学校生活に適応することに大きな困難を抱えているこどもがいる。教師の負担も大きく、こどもたちの学習機会が十分提供されているのか心配になる。このような状況を鑑み、外国籍のこどもたちのために特化したカリキュラムを提供し、彼らが日本の学校での生活だけでなく、将来的にも自立して活動できるような学力を身につけるための支援学級の設置を検討することは可能か。</p> <p>(8) スクールロイヤーの配置について。 学校現場での法的な問題が増加している中、スクールロイヤー（教育行政に関与する弁護士）の配置は検討しているか。生徒指導の法的な根拠を明確にし、教職員の負担を軽減するためにも、専門的な支援が必要と考えるがいかがか。</p>		市 長 副 市 長 教 育 長 関 係 部 長